

地域内フィーダー系統		
事業概要 交通空白地域解消を目的とした西部線、塩瀬線、つくであしがる線の運行事業		
23年度		
自己評価 ・収支率、利用者数、アンケート結果による満足度の目標値を設定。3系統において達成できた目標は西部線、塩瀬線の収支率。満足度においては、西部線の「やや満足」、つくであしがる線の「満足」の回答を得た。 ・沿線住民を主体とした「守り育てる会」を活用し、利用者の増加と満足度の向上に取り組む。	二次評価 設定した目標を達成できない点があったが、引き続き、地域との連携、利用促進PRの取り組みに期待します。	対策 23年度から始めた利用者満足度調査を引き続き行い、満足度を上げるための方策を検討し、対応をしていく。
24年度		
自己評価 ・収支率、利用者数、アンケート結果による満足度の目標値を設定。今後、人口の減少から実際の利用者数が飛躍的に伸びることは考えにくいいため、利用者満足度に重点をおく予定。 ・沿線住民を主体とした「守り育てる会」を活用し、利用者の増加と満足度の向上に取り組む。	二次評価 一部目標を達成できない見込みであるが、引き続き地域との連携、利用促進PR等の取り組みに期待します。 また、北設楽郡との連携を含めた連携計画全体の評価、検証にも期待します。	対策 今年度新たに鳳来地区の秋葉七滝線沿線の「守り育てる会」を発足予定。沿線の少子高齢化が激しく、地域に合ったバスのあり方について検討をしていく予定。 新城市地域公共交通総合連携計画は平成20（2008）年度から平成29（2017）年度にかけての10年間の計画であり、二次評価にあるように、連携計画の全体の評価、検証を行います。

23年度調査事業		
事業概要 新城市と北設楽郡の間を結ぶ民営バス「田口新城線」は、両協議会の共通課題であり、この活性化は協議会の枠を超えた調整が必要であったことから、23年度に両協議会が協働して「田口新城線」の状況調査を実施し、サービス改善のための基礎データを収集し、当該路線のフィーダーとなる市町村営バス路線との結節強化を図るための具体的な方向性を検討する。		
自己評価 ・次年度以降、調査結果を新しい総合連携計画に反映させ、関係運送事業者、市町村関係部局、地権者と協議を実施し、生活交通ネットワーク計画の策定を目指す。	二次評価 新城市と北設楽郡両地域のバス網が有機的に機能するように、両地域にまたがって運行する民間バス路線の再編等について調査を実施し、課題や今後の検討方針の整理を行いました。 今後は、連携計画として具体化し、広域的な生活交通ネットワークとして機能する計画の策定を期待します。	対策 新城市と設楽町を結び、生活交通、来訪交通に重要な本路線については、生活交通として利用している者の視点、来訪手段として選択される視点の双方からJR線との結節を踏まえ、関係市町、沿線住民、沿線観光事業者、運行事業者などと協力し、料金体系、ルートについて、検討をしていく。

